

# 看護部通信

2006.4.1 発行 第10号

## 看護実践の支援体制の整備

看護部では、看護実践の支援体制を整備する目的で「看護実践における得意分野の活かし方」「資格を活かせる体制づくり」「プリセプターシップの体制づくり」について、図-1のような対象にアンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました。アンケートの結果を基にHRMメンバー（看護師長・師長代理）で検討を重ね、新生会看護部の教育基準である「プリセプターシップの体制」を完成させることができました。引き続き、資格取得支援と活用の体制を整備しているところです。看護部では様々な有資格者がいます。資格の中でも透析療法指導看護師は、新生会看護部には30名います。（全国280名、愛知県に38名）したがって、新生会看護部は透析看護の質の高い人材が多いということになります。今後、各有資格者および看護実践の得意分野をお持ちの方が活躍し、看護の質が上がり職場が活性化すれば幸いです。

（教育委員長 千葉志津子）

### 全看護師（管理者を除く）93人

『看護実践における得意分野の活かし方』

### 有資格者 34人

『資格を活かせる体制づくり』

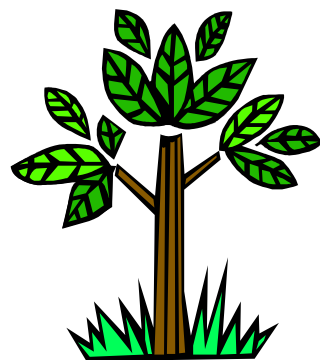
### 管理者（看護師長・師長代理・主任）22人

『看護実践における得意分野の活かし方』  
『資格を活かせる体制づくり』

『プリセプターの支援体制』

### 図-1 アンケート

2005年7月実施



## クリニカルラダーづくり

クリニカルラダーは、皆さんの意見をもとに教育委員で整理し、HRMメンバーで検討してきました。サテライトから使い始め、最終的には2006年2月7日主任達の力を借りて、ようやく実践的に使えるものに整備できました。新生会、十全クリニックでも育成面接から使用予定です。今後は、実践の中からより良いものへと発展させて行ければと思います。

（教育副委員長 宮下美子）



（真剣に話し合う主任たち）

## 新生楽舎・あしたの丘の取り組み



### 新生楽舎

#### 【新生楽舎デイサービスセン

ターナードで一周年を迎えました！保険改正に伴い介護予防にも取り組み、看護師4名頑張っています。明るく楽しい地域の方に愛されるデイサービスを目指しています。



#### 【訪問看護ステーション サルビア】

現在、97名の利用者を67名の医師と連携を取りながら、看護師10名と理学療法士2名で訪問看護しています。難病やターミナル、重介護や医療ケアを必要とする方、リハビリ支援にも力を入れています。

#### 【ホスピー居宅介護支援事業所】

4月の保険改正に向けて、今後のケアプランにどう取り組めばいいのか、ケアマネ全員が頭を抱えている毎日です。学習会や説明会に参加し、新しい情報を吸収しています。

(新生楽舎 所長 横井由美)

### あしたの丘

あしたの丘は、“常時介護を必要とする重度の身体障害者”の生活の援助をしている施設です。入所利用者は60名で、その障害は先天性障害（脳性まひなど）、後天性障害（脳血管障害、難病など）、内部障害（慢性腎不全）の3つに大別されます。ここでの看護師の役割は、利用者の方たちが障害を持ちながらも健康に生活できるよう援助することです。

主な業務は、毎日の体調チェック、病院受診の付き添い、入浴介助（主に、キズの処置、軟膏塗布など）、経管栄養の管理、排便コントロール、体重・血圧測定などです。又、入院時は、利用者の状況を把握し、家族や病院スタッフと連携をとったり、退院時は施設での生活が可能かを評価し、病院スタッフと話し合いを持ったりしています。

あしたの丘は、平成7年に開設され、11年を迎えています。利用者の障害も徐々に進行し、昨日まで出来ていたことが、明日は出来なくなることもあり、利用者の精神面の援助も重要となっています。そんな中、昨年9月には10周年記念式典が行われました。利用者の方の介護や看護をしながら、逆にスタッフのほう励まされたり、元気をもらったという声が多くありました。お互いに助け合いながら生きているんだと感じたひと時でした。生活支援での看護のあり方をこれからも追及していけたらいいなと思っています。

(あしたの丘 主任 徳井久子)



# 身につけよう！接遇を！

## 第2回



日常のケアを通じて、患者さまに満足していただけるということは、うれしいものです。人と人の接触である限り、相手の満足は自分自身の満足であり、喜びにつながります。しかし、医療現場での接遇は、看護知識と技術という看護実践能力を、いかに高めていくかということが接遇能力の重要な鍵となります。そこで、知識と技術に磨きをかけながら、以下のことを意識してみてください。  
【金山クリニック 看護師 伊井たか子】

### ★円滑な接遇のポイント★

#### 『四くばり』

- ・ 目くばり：一人ひとりの患者さまを何気なく見ることができるようアンテナを張る。
- ・ 気くばり：患者さまからの要求の気配を感じたらすぐに対応する。
- ・ 耳くばり：耳に入ってくる音や声の大きさなどに注意を払う。  
(職員同士のおしゃべりや声のトーンが患者さまに不快感を与えることもあります)
- ・ 心くばり：車椅子の患者さまがエレベーターに乗っていたら付き添うなど・・・

#### 『三かけ』

- ・ 声かけ：患者さまが困っている場面に遭遇したら声をかける。
- ・ 手かけ：患者さまがナースコールやテレビの使用方法がわからなければ、一緒に触れながら操作をする。
- ・ 心がけ：一度、声をかけて対応した患者さまに対して、いつでも気にかける。

#### 『三まめ』

- ・ 手まめ：すぐ片付ける、すぐ拾う。
- ・ 口まめ：すぐ返事をする、すぐ挨拶をする。
- ・ 足まめ：すぐ行く、すぐ探す、すぐ止まる。



## いきいきナース

十全クリニックで、美しく、楽しく、生き活きと輝いている  
看護師 平原みどりさんに“その秘訣は？”と聞いてみました。

Q. 趣味と仕事を両立されていますが、そのコツは？

A. 休みの日は外出し、自分の趣味や楽しいことに熱中することで、翌日の仕事への気持ちの切替ができています。特に、冬の時期は、雪山へスノーボードをしに行き、バジテスト1級へ向けて頑張っています。

Q. スノーボードで培ったことが仕事でどのように生かされていますか？

A. 普段から、何をやっても長続きしない性格ですが、スノーボードに出会ってからは追求することを覚え、忍耐力が培ったと思います。

看護師となって透析看護に携わり公私共に輝いています。楽しいことに熱中できることは、仕事にもベテランナースとして、患者、医師、コメディカルスタッフ、看護師からも信頼を得て、頼りになる存在に繋がっていると感じます。

【十全クリニック 師長 牛崎ルミ子】

